

教科	科目	学年・課程	単位数
国語	国語表現	2年 普通科Ⅰ類型	2
学習の目標			
1 国語で適切に表現する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を養います。 2 進路目標に応じた表現力を身に付けることも目標とします。			
学習の内容			
1 表現の楽しみ ジャンル・形式にとらわれない、自由な発想による表現活動を通して、表現することへの親しみを養います。学習予定内容は「写真に五七五を付ける」です。 2 表現の基礎 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の基盤となる事柄を理解するとともに、表現全般に通じる基礎的な方法を習得します。教材として「文章を書く意味」「文章の書き方」「わかりやすい表現」「表現の工夫」「描写の工夫」を学習する予定です。 3 表現の実践（一） 「通信・案内・伝達」の際の表現方法を身に付けます。教材としては「手紙を書く」「紹介文・宣伝文を書く」を扱う予定です。 4 表現の実践（二） 「記録・報告」の際の表現方法について学習します。教材は「記録文を書く」「レポートを書く」を取り上げます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。 2 話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 3 書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 4 読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。 5 知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の5つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考査、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取り組みなど、全ての学習活動を評価の対象とします。			
その他			
「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。 我々の生きる社会は日々多様化し複雑さを増しています。特に、21世紀を担う生徒諸君は、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。立場や意見を異にする人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。 それには、まず、基礎的語彙が身に付くまで、何度も何度も繰り返し読み書くことです。そして、文章を声に出して読んでみてください。また、学習は目と頭だけではありません。五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。国語力は読書量に比例するとも言われています。本校では、『朝の読書』に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。 授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。			

教科	科目	学 年 ・ 課 程	単位数
国 語	現代文B	2年 普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 近代以降の文章について、読解・鑑賞の方法を習得し、ものの見方・考え方を深めること、また、自分の考えをまとめて適切に表現する能力を身に付けることが目標です。 2 1年次の国語総合（現代文の分野）で養った「読む」力・「書く」力を、自分に必要な具体的な“生きる力”に高めていきます。			
学習の内容			
評論・小説・随想・韻文の4つのジャンルについて、近・現代を代表する筆者（作者）の作品を読み、現代文へのアプローチの仕方や読み解き方を学びます。理解や表現に必要な、基礎的な語彙力を充実させることに力点をおいて学習します。 学習予定作品は、随想：「わたしはあなただったかもしれない」「『私』という『自分』」小説：「デューク」 評論：「新しい地球観」「ヒトはなぜヒトになったか」 詩：「この世」「永訣の朝」 随想：「情けは人の…」 「『マジ?』」 評論：「コミュニケーションの文化」「名所絵はがきの東西」 小説：「こころ」です。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。 2 話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 3 書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 4 読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。 5 知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の5つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考查、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取り組みなど、全ての学習活動を評価の対象とします。			
その他			
「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。 しかし、我々の生きる社会は日々多様化し、複雑さを増しています。特に、21世紀を担う皆さんは、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。そのような人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。 それには、まず、何度も何度も繰り返し読み書くことです。何度も書く、何度も読むことは、学力を定着させる一番の近道です。文章を声に出して読んでみてください。そして、五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。 また、本や新聞を読むことは、語彙を豊かにし、考える力を養い、人間や社会現象の理解を深めます。本校では、『朝の読書』に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。 授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。			

教科	科 目	学年・課程	単位数
地理歴史	地理A	2年普通科Ⅰ類型 2年ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 世界の人々の生活する環境を科学的に理解することを目指します。 2 世界が直面する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養うことを目指します。			
学習の内容			
第1章 球面上の世界 地球儀や各種の地図の特色や活用法について学習します。 第2章 自然・生活・文化と私たちの暮らし 人間生活を取り巻く地形や気候と産業について学習します。 第3章 世界各地の生活・文化 世界の各地域を地誌的な観点から学習します。 第4章 地球的課題 現在直面している地球規模のさまざまな問題（人口と食糧問題・資源エネルギー問題など）について地理的な視点から考えます。 第5章 生活圏の諸課題 地形図の読み取り方や、自然災害について学習します。これらの学習を通して、地形図などの地図を読み取る技能を習得し、防災意識の向上を図ります。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 地理的事象に興味・関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組んでいるか、また、積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。 2 思考・判断・表現 世界各地で起きている様々な事象を把握するとともに、身近な地域社会で自分は何ができるのかということが考察できているか、さらにその考察内容の研究・分析を行い、それらを表現できるかを評価します。 3 資料活用の技能 統計資料を読み解く力が身に付いているかを評価します。 4 知識・理解 地理に関する基本的な内容を理解するとともに、さらに実生活に役立つ知識が身に付いているかを評価します。			
評価の方法			
1 関心・意欲・態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 資料活用の技能 … 授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 4 知識・理解 … 定期考査の結果をもとに評価します。			

教科	科目	学年・課程	単位数
公民	現代社会	2年普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 広い視野に立って、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する力を養うことを目指します。 2 人間としての在り方・生き方について考える基礎的な力を養い、良識ある公民としての必要な能力を養うことを目指します。			
学習の内容			
第1部 わたしたちの生きる社会 現代社会における地球環境問題・資源エネルギー問題さらに生命倫理などの諸課題について、その要因や取組について学習していきます。 第2部 現代の社会と人間 【第1編】 青年期と自己の形成 現代社会を社会生活の面からとらえます。第1章では、青年期の課題と私たちの今後の人生における社会への参加について考えます。第2章では、哲学や宗教、先人の教えからよく生きることとは何か考えます。 【第2編】 現代の民主政治と日本国憲法 現代社会を政治の面からとらえます。第1章では、民主政治の原理と成立の歴史、その課題について学習します。第2章では、日本国憲法の成立とその基本原理を学習します。そして、主権者として基本的人権と平和を守るにはどのように行動していけばよいかを考えていきます。第3章では、現代の民主社会について学習し、私たちが国や地方の政治にどのように参加したらよいかを考えます。 【第3編】 現代の経済社会と国民生活 現代社会を経済の面からとらえます。第1章では、経済活動とはどのようなものかを学習します。第2章では、経済活動の中心といえる企業の活動を通して現代の日本経済の様子を学習します。また、日本経済を財政・金融・消費者の面からとらえます。そして、これからの経済のあり方について、環境・福祉の視点を中心に考えていきます。 【第4編】 国際社会と人類の課題 グローバル化が進んでいる国際社会を経済・政治の両面から学習します。また、世界から求められている日本の役割や、真の共生社会をめざして私たちがどのように取り組み、行動していくべきかを考えていきます。 第3部 共に生きる社会を目指して 発展途上国と先進国との共生、自由や幸福を次の世代にわたって受け継ぐための課題について考えていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 現代社会に関する出来事に興味・関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組んでいるか、また積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。 2 思考・判断 日本が世界の中でどのような立場に置かれているのかという現状を把握するとともに、身近な地域社会や、グローバル社会の中で自分は何ができるのかということを考察できているかを評価します。 3 技能・表現 統計資料を読み解く力を身に付けているか、さらにさまざまな資料に対する内容の研究・分析を行い、それらを理解・整理し表現できるかを評価します。 4 知識・理解 現代社会に関する基本的な内容を理解するとともに、さらに実生活に役立つ知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 関心・意欲・態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 資料活用 of 技能 … 授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 4 知識・理解 … 定期考査の結果をもとに評価します。			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
数 学	数 学 II	2 年普通科 I 類型	2
学習の目標			
1 いろいろな式 数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにします。 2 図形と方程式 直線や円などの平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにします。			
学習の内容			
1 いろいろな式 式と計算、等式・不等式の証明、複素数と方程式の解、高次方程式について学習します。 2 図形と方程式 点と直線、円、軌跡と領域について学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 数学的活動を通して式と証明、複素数と方程式、図形と方程式における考え方に関心をもっているか、また、意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方を身に着けているかを評価します。 2 数学的な見方や考え方 数学的活動を通して式と証明、複素数と方程式、図形と方程式における数学的な見方や考え方を身に着けているか、また、見いだした数学的な見方や考え方を多面的・発展的に考えているかを評価します。 3 数学的な技能 式と証明、複素数と方程式、図形と方程式において、事象を数学的に考察して適切な計算方法やグラフを用いて処理できているか、事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に着けているかを評価します。 4 知識・理解 式と証明、複素数と方程式、図形と方程式における基本的な概念、原理・法則用語記号などを理解し、基本的な知識を身に着けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。 2 調査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とします。			

教科	科目	学年・課程	単位数
理科	生物基礎	2年普通科Ⅰ・Ⅱ類型、ライフデザイン科 3年普通科Ⅱ類型	2
学習の目標			
1 生物や生命現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高めま す。 2 生物学的に探究する能力や態度を身に付けながら、基本的な概念や原理・法則を理解し て科学的な自然観を身に付けることを目指します。			
学習の内容			
1 生物と遺伝子 生物が細胞からできていること、細胞内の小器官の働き、DNAの構造、細胞分裂との関 係、また遺伝情報からタンパク質を合成する仕組みについて詳しく学びます。 2 生物の体内環境の維持 心臓と血液の循環、自律神経系、内分泌系、免疫について学びます。 3 生物の多様性と生態系 植生の遷移や、分布、バイオームについて学びます。特に生態系とその保全について詳 しく学びます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 生物的な事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、生物 学的なものを見方を身に付けているか評価します。 2 思考・判断・表現 生物的な事物・現象の中に問題を見だし、観察・実験などを行うとともに、実証的・ 論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、事実に基づいて導き出した考えを表現でき るかを評価します。 3 観察・実験の技能 生物的な事物・現象に関する観察実験の技能を習得するとともに、それらの過程や結果 を的確に記録、整理できるかを評価します。 4 知識・理解 観察・実験などを通して、生物的な事物・現象についての基本的な概念や原理や法則を 理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 評価の内訳は、「関心・意欲・態度」20%、「思考・判断」30%、「観察・実験の技能・表 現」20%、「知識・理解」30%です。 2 定期考査、授業中の学習の様子、観察・実験の技能、課題の提出状況などをもとに評価を 行います。			
その他			
○生物の実験では、薬品を使用しますので、先生の指示に従って安全に実験してください。			
○授業でわからないことがあったら、理科の先生へすぐ質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
保健体育	体育	2年普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
学習の内容			
体づくり運動では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を行います。特に体力を高める運動を行い、体力の増進を目指します。体づくりでは運動実施後の達成感や充実感が得られるよう、内容を精選しコミュニケーションや人とのふれあい、言語活動能力を養っていきます。 球技では、年間の気候を考慮した授業を計画します。ネット型(バレーボール・バドミントン・テニス・卓球) ベースボール型(ソフトボール) ゴール型(サッカー・バスケットボール)から選択し、ボールを用いて、集団的スキルや個人的スキルを発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から、作戦をたてたり、工夫をすることの楽しさを味わいます。 陸上競技では、学校外のコースを自分の能力に応じたペースで走ったり、記録に挑戦したりして、自己の課題を克服する気持ちを育てます。 体育理論ではスポーツのルールはもちろんのこと運動の大切さやメカニズムについて理解させ、生涯を通じて運動を実践できる能力や態度を養っていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで計画的に運動しようをしているか評価します。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いているか評価します。 健康や安全に留意して運動しようとしているか評価します。 2 思考・判断 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけだしているか評価します。 課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか評価します。 3 運動の技能 己の能力と運動の特性に応じた課題の克服を目指して運動を行い技能を高めているか評価します。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけているか評価します。 4 知識・理解 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し身につけているか評価します。			
評価の方法			
1 各運動種目とも、スキルテスト・グループノート等を利用して評価します。 特に集団競技においてはグループでのミーティング・グループ練習での活動を大切にし、ゲーム終了後にチームの問題点をフィードバックして修正する時間を与え、活動の様子も評価します。 2 各運動種目とも、「関心・意欲・態度 20%」「思考・判断 20%」「運動の技能 40%」「知識・理解 20%」で評価します。			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
保健体育	保健	2年普通科・ライフデザイン科	1
学習の目標			
今後の生活に必要なかつ大切な健康・安全に関する理解を深めながら、自らの健康を適切に管理する態度を養い、将来活用し生かすことのできる力を身に付ける。			
学習の内容			
第2章 生涯を通じる健康 「生涯の各段階における健康」では、思春期における心身の発達や健康問題について理解し、健康な結婚生活の基盤となる適切な意志決定や良好な人間関係を築くことが必要であることを学習します。 「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」では、生涯を通じて健康を保持増進するためには、我が国の保健・医療制度や機関について知り、地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを学習します。			
第3章 社会生活と健康 「環境と健康」では、人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあり、これには、様々な対策がとられていることを学習します。 「環境と食品の保健」では、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、環境衛生活動が行われていることを学習します。また、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることを学習します。 「労働と健康」では、職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることを学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 健康の保持増進に必要な事柄について関心を持っているか評価します。 仲間と協力して資料を集めたり、意見交換したりするなど意欲的に授業に参加しているか評価します。 2 思考・判断 自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他の人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考えて行動しているか評価します。 3 知識・理解 適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解しているか評価します。 個人生活及び社会生活の健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身につけているか評価します。			
評価の方法			
1 観点別評価基準に基づいて、授業態度の観察、ノート、実習、レポート、定期考査等を参考にして評価します。 また、各項目ごとに関連性のある旬の話題やニュースを各自持ち寄って情報交換をし、知識として備えていればよい事項を発表させ評価します。 (授業態度の観察、実習の評価)			

教科	科目	学年・課程	単位数
芸術	音楽Ⅱ	2年 普通科 I・II類型 2年 ライフデザイン科	1
学習の目標			
1 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めます。 2 様々な音楽を系統的に鑑賞し、音楽文化についての知識と理解を深めます。			
学習の内容			
1 西洋音楽史を通して、各時代の社会状況に結びついた音楽の変遷を理解し、鑑賞への興味や関心を高めます。 2 日本の伝統音楽、民俗音楽と合わせて、世界の諸民族の音楽の価値を認識し、異文化に対して関心を持ち、意欲的に鑑賞する態度を身に付けます。 3 グループでの演奏発表を通して、表現の創意工夫の方法を学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 音楽を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているかを評価します。 2 表現の創意工夫 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫しているかを評価します。 3 表現の技能 創造的な芸術表現をするために必要な技能を身に付けているかを評価します。 4 鑑賞の能力 音楽を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わっているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評点は、授業内で行う実技試験、筆記試験と、各活動に取り組む姿勢を考慮して評価します。 2 関心・意欲・態度 20% 表現の創意工夫 20% 表現の技能 20% 鑑賞の能力 40%を基準に評価します。			
その他			
資料等を整理するA4サイズのファイルを準備して下さい。（1年次と継続） 進路に音楽が必要な者は、早めに相談に来て下さい。			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
芸術	美術Ⅱ	2年 普通科Ⅰ・Ⅱ類型 2年 ライフデザイン科	1
学習の目標			
1 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を養うことを目指します。 2 感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることを目標とします。			
学習の内容			
1 絵画・彫刻 自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生成し、表現形式を選択するとともに、創造的で心豊かな表現の構想を練る力を養います。 2 デザイン 自然、自己、社会などを深く見つめて、生活を美しく豊かにするデザインの働きを考え、創造的で心豊かな表現の構想を練る力を養います。 3 鑑賞 作品や作者の個性などに関心をもち、発想や構想の独自性、表現の工夫などについて多様な視点から分析し、心豊かな生き方の創造にかかわる美術の働きについて理解を深めます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか評価します。 2 発想や構想 感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫しているかを評価します。 3 表現の技能 創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けているかを評価します。 4 鑑賞の能力 作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさを創造的に味わおうとしているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評点は、各活動への取組と、授業内で制作した作品を考慮して評価します。 2 関心・意欲・態度25%、発想や構想25%、創造的な技能35%、鑑賞の能力15%を基準として評価します。			
その他			
制作に関して分からないことや疑問があれば、積極的に質問して下さい。 美術系進路を考えている人は、早めに相談に来て下さい。			

教科	科目	学年・課程	単位数
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	2年普通科Ⅰ類型	2
学習の目標			
1 英文を読んだり聞いたりして、情報や考えを理解し、概要や要点をとらえることができるようになることを目指します。 2 聞き手に伝わるよう音読ができるようになることを目指します。 3 学んだことに基づき、英語で書いたり話し合ったりして意見の交換ができるようになることを目指します。			
学習の内容			
Lesson 1 Staying in Space (S+V+that節、S+V+O+that節) Lesson 2 Doraemon in the U.S. (want+人など+to不定詞) Lesson 3 Farm in the Sky (疑問詞+to不定詞) Lesson 4 Goal Setting (分詞構文) Lesson 5 The High School Student Restaurant (形式主語It) Lesson 6 Why Is It That Shape? (関係代名詞what) Reading 1 The Swing What are heavy? ZEBRA QUESTION (詩)			
評価の観点			
1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを評価します。 2 外国語表現の能力 学習したことや与えられた話題について、英語で話したり書いたりして表現できているかを評価します。 3 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解しているかを評価します。 4 言語や文化についての知識・理解 言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評価は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解を総合的に評価します。 2 授業での小テストや課題への取組、提出物、授業態度なども評価の対象とします。 3 長期休業中の課題および実力テストの結果も評価の対象とします。			

教科	科目	学年・課程	単位数
商業	ビジネス基礎	2年普通科Ⅰ類型	4
学習の目標			
ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けるとともに、つねに大きく変化するビジネス社会に適切に対応する能力と態度を育てることを目指します。			
学習の内容			
(1 学期) 1 章 商業の学習ガイダンス 6 章 売買に関する計算 2 章 経済と流通の基礎 (2 学期) 3 章 ビジネスの担い手 4 章 企業活動の基礎 5 章 ビジネスと売買取引 (3 学期) 7 章 ビジネスとコミュニケーション			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 学習や課外学習に積極的に参加し、発表やレポートの提出内容や回数から評価します。 2 思考・判断・表現 課題を思考判断し、解決しているかどうかを評価します。 3 技能 基礎・基本的技能から応用的な技能まで発展させているかどうか、レポートの内容や質問の解答内容から評価します。 4 知識・理解 商業の学習目的やビジネスに関する基礎的・基本的な知識を各考査から評価します。			
評価の方法			
1 上記の 4 つの評価の観点から総合的に評価します。 2 評価の対象となる主な項目は次のとおりです。 観点評価 1…授業への取組、ノート・プリント・レポートの提出 観点評価 2…定期考査、小テスト 観点評価 3…定期考査、レポート 観点評価 4…定期考査、小テスト			
その他			
受験できる資格の例は、次のとおりです。 全商主催珠算・電卓実務検定 2・3 級 全商主催商業経済検定 3 級			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
商 業	簿 記	2年普通科 I 類型	3
学習の目標			
企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得し、簿記の基本的な仕組みについて理解するとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付けることを目標とします。			
学習の内容			
1 簿記の基礎 資産・負債・純資産、仕訳帳と総勘定元帳、試算表、決算の基礎 2 取引の記帳と決算Ⅰ 現金・預金、商品売買、掛け取引、固定資産の取引、 3 取引の記帳と決算Ⅱ 手形の取引、有価証券の取引、その他の債権債務の取引、販売費及び一般管理費、 資本金の取引・税金の記帳など 4 帳簿と伝票 帳簿、仕訳伝票と3伝票制			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 個人企業における簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得をめざして意欲的に取り組むとともに、企業において日常発生する取引について適正な会計処理を行う実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 いろいろな処理法や記帳法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けており、また、適正な会計処理を行う能力を適切に表現できるかを評価します。 3 技能 個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付けているかを評価します。 4 知識・理解 個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的なしくみについて理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。 2 評価の対象となる主な項目は次のとおりです。 観点評価1…授業への取組、ノート・プリント・ワークブックの提出 観点評価2…定期考査、小テスト 観点評価3…定期考査、記帳練習 観点評価4…定期考査、小テスト			
その他			
受験できる資格の例は、次のとおりです。 全商主催簿記実務検定試験 3級			

教科	科目	学 年 ・ 課 程	単位数
商業	情報処理	2年普通科 I 類型	3
学習の目標			
情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について理解するとともに、情報を適切に収集、処理し活用する能力と態度を身に付けることを目標にします。			
学習の内容			
(1 学期)	1 情報の活用と情報モラル 2 情報通信ネットワークとセキュリティ管理 3 ビジネス情報の処理と分析 (1) 基本的な表の作成		
(2 学期)	(2) 関数を利用した表の作成 (3) グラフの作成		
(3 学期)	(4) 情報の整理・検索・抽出 (5) ビジネスと統計		
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 情報の収集・処理・分析・表現に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けているかを評価します。			
2 思考・判断・表現 ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているかを評価します。			
3 技能 情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているかを評価します。			
4 知識・理解 情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。			
2 評価の対象となる主な項目は次のとおりです。 観点評価1…授業への取組、ノート・プリント・ワークブックの提出 観点評価2…定期考査、小テスト 観点評価3…定期考査、実技練習 観点評価4…定期考査、小テスト			
その他			
取得できる資格は、次のとおりです。 全商主催情報処理検定試験（ビジネス情報部門） 2級 全商主催情報処理検定試験 3級 全商主催ビジネス文書検定試験 3級			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	フードデザイン	2年・普通科Ⅰ型	2
学習の目標			
1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付けることを目指します。 2 食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する態度を育てることを目指します。			
学習の内容			
この科目では、食生活と健康について学習し、食事の意義と役割を理解するとともに、心身ともに健康で豊かな食生活を営むために栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付けていきます。フードデザイン実習を通して、学んだ知識や技術を自分自身の食生活に取り入れて食事を総合的にデザインする能力と態度を身に付けていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 食生活に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか、食事を総合的にデザインする実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 食事を総合的にデザインすることを目指して自ら思考を深めているか、学習した知識と技術を活用して、創意工夫する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか、食事を総合的に捉えて計画・実践できるかを評価します。 4 知識・理解 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか、食事の意義と役割や豊かな食事について総合的に理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」を総合的に評価します。 2 授業に取り組む姿勢、実習意欲や態度、提出物（ノート、実習ノート、実習プリント）、準備物などについても評価します。			
その他			
調理実習については、家庭で予習、復習をし、実習に真剣に取り組む、調理技術や知識を身に付ける努力をしましょう。			